8.12［土］ 15:00開演（開場14:15）

阪田知樹 ピアノ・リサイタル

8.13［日］ 15:00開演（開場14:15）

奇跡のチェロ・アンサンブル2023

軽　井　沢　大　賀　ホ　ー　ル

ご挨拶

本日は、軽井沢大賀ホールにお越しいただき、誠に有難うございます。新型コロナウィルスによる3年半にもおよぶ暗い世の中に、少しながら明るい希望が戻ってきましたこと大変嬉しく思っております。

軽井沢大賀ホールCLASSICS 2023でピアノを演奏して下さいます阪田知樹さんのご活躍ぶりは皆様もよくご承知のことと存じます。以前から私はぜひ拝聴したいとチケットを用意し楽しみにしておりましたが、2度、コロナの為中止となりました。昨年初めにやっとサントリーホールでうかがうことが出来ました。華麗なリストの演奏中、余りにも力強いタッチなのか突然弦が切れて客席の中央まで飛んできたのは驚きでございました。迫力と繊細さを兼ね備えた演奏に感動し、早速、軽井沢大賀ホールでのご出演をお願いしたところ快くお引き受け頂き、とても嬉しく思っております。

ここ数年、日本ではお若い男性アーティストのご活躍がめざましく心から喜んでいます。私の時代とは次元が違うと思えるほど、才能・技術・表現など驚きの多い日々が続いております。8月13日のご出演は偶然、男性の方ばかりになっております。6人のチェリストのコンサートを昨年私が何気なく録画しておいたNHKの番組を拝見し、こんなにチェロのアンサンブルが素晴らしく楽しいのかと驚き、急ぎご出演のお願いをしましたところ、幸運にもお引き受け頂いた次第でございます。素晴らしいキャリアと才能をお持ちの6人のチェリストが普段聴けない曲を次々に奏でて下さる“夢のコンサート“でございます。

軽井沢大賀ホールが誕生し、あと数年で20年を迎えようとしています。当ホールは平行壁面のない五角形として、最高の音響を生みだしてまいりました。また、軽井沢を愛する方々のそばで寄りそってきたカラマツがホール内にふんだんに使われ、その温もりとともに、まるで、ひとつの大きなチェロのように響いてくれるのではないかと期待しております。

本日のご来場、心より御礼申し上げます。

軽井沢大賀ホールCLASSICS実行委員会
実行委員長　大賀緑

阪田知樹　ピアノ・リサイタル

8.12［土］

15:00開演
（開場14:15）

ベリオ／水のクラヴィーア（1965）
Luciano BERIO/ Wasserklavier (1965)

ショパン／24の前奏曲 op.28
Fryderyk CHOPIN/ 24 Preludes, op. 28

～ 休 憩 ～

リスト／『巡礼の年』第2年「イタリア」S.161/R.10 より
Franz LISZT/ Années de pèlerinage deuxieme année "Italie"

第4曲「ペトラルカのソネット第47番」
No. 4. Sonnet 47 of Petrarch

第5曲「ペトラルカのソネット第104番」
No. 5. Sonnet 104 of Petrarch

第6曲「ペトラルカのソネット第123番」
No. 6. Sonnet 123 of Petrarch

第7曲「ダンテを読んで ― ソナタ風幻想曲」
No. 7. After Reading Dante, Fantasia quasi sonata

奇跡のチェロ・アンサンブル2023

8.13［日］

15:00開演
（開場14:15）

クレンゲル／讃歌（編曲: 小林幸太郎）
Julius KLENGEL/ Hymnus for 12 Cellos, op. 57

ポッパー／ハンガリー狂詩曲（編曲: 小林幸太郎）
David POPPER/ Hungarian Rhapsody, op. 68

グリーグ／組曲『ホルベアの時代から』（編曲: W.トーマス=ミフネ）
Edvard GRIEG/ Holbergs Suite op. 40

サン=サーンス／序奏とロンド・カプリチオーソ
（編曲: 小林幸太郎）
Camille SAINT-SAËNS/ Introduction and Rondo Capriccioso op. 28

～ 休 憩 ～

ピアソラ／ブエノスアイレスの四季
～『夏』『秋』『冬』『春』（編曲: 小林幸太郎）
Ástor PIAZZOLLA/ The Four Seasons of Buenos Aires

8.12［土］ 阪田知樹 ピアノ・リサイタル　Artist Proflie

ⓒHIDEKI NAMAI

阪田知樹 ピアノ
SAKATA Tomoki, Piano

8.13［日］ 奇跡のチェロ・アンサンブル2023　Artist Proflie

辻本 玲 チェロ
TSUJIMOTO Rei, Cello

NHK交響楽団首席チェロ奏者。東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業。第72回日本音楽コンクール第2位。2007年度青山音楽賞新人賞受賞。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞（日本人最高位）。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウス、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。

公式サイト
http://www.rei-tsujimoto.com

ⓒTakashi Okamoto

横坂 源 チェロ
YOKOSAKA Gen, Cello

桐朋学園女子高等学校（男女共学）、同ソリストディプロマ・コースを経て、シュツットガルト国立音楽大学、並びにフライブルク国立音楽大学で研鑽を積む。13歳で東京交響楽団と出身地である新潟で初協演したのを皮切りに、国内外主要オーケストラと多数協演を果たしている。2001年全日本ビバホール・チェロコンクール最年少優勝、2010年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位。出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、ホテルオークラ音楽賞受賞。新潟市出身。

ⓒCharlotte Fielding

伊藤悠貴 チェロ
ITO Yuki, Cello

15歳で渡英。王立音楽大学在学中、ブラームス国際コンクール、ウィンザー祝祭国際弦楽コンクールに優勝。以来、フィルハーモニア管弦楽団から吹奏楽の巨匠J.デ・メイまで、著名指揮者のもと国内外の主要オーケストラと共演。ラフマニノフを生涯の研究対象とし、リサイタルは17歳でクロアチア・ツアーを行って以来、ロンドンのウィグモア・ホールをはじめとする世界各地で行う。2019年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール第1位、6つの特別賞。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。東京芸術大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学大学院ソリスト課程に在籍。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて弱冠19歳で最年少入賞。ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンゲン国際ピアノオリンピックでは日本人初となる第1位及び聴衆賞。国内はもとより、世界各地20ヵ国以上で演奏を重ね、国際音楽祭への出演多数。2015年CDデビュー、2020年3月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。2022年5月には阪田知樹ピアノ編曲集「ヴォカリーズ」、2023年7月に「夢のあとに」が音楽之友社より出版。内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。2023年第32回出光音楽賞受賞。

出演者プロフィール

小林幸太郎　チェロ
KOBAYASHI Kotaro, Cello

桐朋学園大学音楽学部弦楽科チェロ科首席卒業。チェロを倉田澄子氏に師事。泉の森チェロコンクールにてコンクール史上最初に全部門に優勝。その他全日本学生音楽コンクール、モーツァルト国際室内楽コンクールをはじめとする多数のコンクールに優勝、入賞を果たす。桐朋学園チェロアンサンブルの常任アレンジャー、コンサートマスターを経て、現在チェリスト、作編曲家として国内外多数のアーティスト、団体と共演。音楽制作に携わっている。Paulownia cello Quartetメンバー、ミニケストラ株式会社芸術監督。

ⓒShigeto Imura

岡本侑也　チェロ
OKAMOTO Yuya, Cello

2017年エリザベート王妃国際音楽コンクール第2位、新日鉄住金音楽賞フレッシュアーティスト賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、出光音楽賞、ホテルオークラ音楽賞などを受賞。ミュンヘン音楽・演劇大学を首席で卒業。同大学院ソロ科も首席で修了し、現在も同院で研鑽を積みながら第一線で演奏活動を展開。今年4月にルツェルン、パリ、ウィーンなどでピアニストのクリスチャン・ツィメルマンと三度目の共演、エレガントなフレージングと輝きを放つチェリストと高い評価を得た。

上野通明　チェロ
UENO Michiaki, Cello

2021年ジュネーヴ国際音楽コンクール・チェロ部門日本人初の優勝、併せて三つの特別賞受賞。若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール、ブラームス国際コンクール優勝等国際舞台で活躍。ワルシャワ・フィル、スイス・ロマンド管、KBS響、読売日本響等、国内外のオーケストラと多数共演。令和三年度文化庁長官国際芸術部門表彰、第31回出光音楽賞受賞。使用楽器は1758年製P.A.テストーレ（宗次コレクション）、弓は匿名のコレクターからF.トルテを貸与されている。

「軽井沢大賀ホールCLASSICS 2023」1日目を飾るのは、昨今活躍が目覚ましい若手実力派ピアニスト阪田知樹によるリサイタル。ピアノ音楽を代表するショパン、リストに加え、冒頭にベリオによる繊細な作品を配した本公演は、夏の軽井沢でぜひ静かに聴き入りたい格別なプログラムである。

ベリオ／水のクラヴィーア（1965）

現代イタリアを代表する作曲家**ルチアーノ・ベリオ**（1925-2003）は十二音技法、電子音楽、偶然性の音楽等、20世紀のあらゆる書法を試みた巨匠である。《**水のクラヴィーア**》（1965年作）は元々2台ピアノ用に作曲されたが後にソロ曲へと改作され、1990年に出版された『6つのアンコール』に第3曲として収められた。「クラヴィーア」はドイツ語でピアノの意味だが、チェンバロ、クラヴィコード等、オルガン以外の鍵盤楽器全般を指す。楽譜の冒頭には「*ppp sempre* 常に極めて弱く」と指示されており、拍子は6/8と9/8の交替を2度経て最後は3/4拍子に落ち着く。揺らめく美しい和音上に旋律の断片が散りばめられた幻想的な小品である。

ショパン／24の前奏曲 op. 28

第1番：ハ長調、アジタート、2/8拍子。
第2番：イ短調、レント、2/2拍子。
第3番：ト長調、ヴィヴァーチェ、2/2拍子。
第4番：ホ短調、ラルゴ、2/2拍子。
第5番：ニ長調、アレグロ・モルト、3/8拍子。
第6番：ロ短調、レント・アッサイ、3/4拍子。
第7番：イ長調、アンダンティーノ、3/4拍子。
第8番：嬰ヘ短調、モルト・アジタート、4/4拍子。
第9番：ホ長調、ラルゴ、4/4拍子。
第10番：嬰ハ短調、アレグロ・モルト、3/4拍子。
第11番：ロ長調、ヴィヴァーチェ、6/8拍子。
第12番：嬰ト短調、プレスト、3/4拍子。
第13番：嬰ヘ長調、レント、6/4拍子。
第14番：変ホ短調、アレグロ、2/2拍子。
第15番：変ニ長調《雨だれ》、ソステヌート、4/4拍子。
第16番：変ロ短調、プレスト・コン・フオーコ、2/2拍子。
第17番：変イ長調、アレグレット、6/8拍子。
第18番：ヘ短調、アレグロ・モルト、2/2拍子。
第19番：変ホ長調、ヴィヴァーチェ、3/4拍子。
第20番：ハ短調、ラルゴ、4/4拍子。
第21番：変ロ長調、カンタービレ、3/4拍子。
第22番：ト短調、モルト・アジタート、6/8拍子。
第23番：ヘ長調、モデラート、4/4拍子。
第24番：ニ短調、アレグロ・アッパッシオナート、6/8拍子。

フレデリック・F・ショパン（1810-1849）の《**24の前奏曲**》**op. 28**は、1838年11月から翌年2月にかけて恋人ジョルジュ・サンド（および彼女の2人の子ども）と過ごした地中海西部のマヨルカ島で作曲された。数曲は島に渡る以前に完成していたとみられるが、1839年1月22日付でピアノ・メーカー兼出版業者のプレイエルに宛てた手紙には「ついに私の前奏曲集をお送りできます。これらは海運、悪天候、パルマ税関［での足止め］にもかかわらず、考え得る最高の状態で到着したあなたのピアノで完成させました。」と書かれている。

ショパンはマヨルカ島にJ. S. バッハ（1685-1750）の《平均律クラヴィーア曲集》を持参しており、24の調性すべてのプレリュード（前奏曲）とフーガで構成される同曲集がショパンにインスピレーションをもたらしたことは考えうる。しかし近年の研究は、19世紀前半にショパンと同種の前奏曲集が数多く出版されており、特に教育目的で利用されたことを明らかにしている。その一例がヨハン・ネポームク・フンメル（1778-1837）による《24の前奏曲》作品67（1814-15年頃作）であり、彼の曲集は調性の配列がショパンと完全に一致している（ちなみに青年時代のショパンはフンメルを非常に尊敬していた）。ただしフンメルの前奏曲は1曲あたり10小節程度と非常に短い。当時は本番演奏に入る前に即興的・指慣らし的にピアノを奏でる習慣があり、フンメルの曲集はこの「前弾き」の例を集めたものとみられる。

ショパンの前奏曲はこうした伝統に立脚しつつ、より詩的な音楽表現が溢れ、芸術作品としての完成度を高めている点でそれまでの前奏曲集とは一線を画するものであった。

リスト／『巡礼の年』第2年「イタリア」S.161/R.10 より

ハンガリー生まれの**フランツ・リスト**（1811-1886）は海外生活で接した文物の印象をもとに『**巡礼の年**』全4巻をまとめた。**第2年「イタリア」**は1837年夏から1839年秋にかけて恋人のマリー・ダクー伯爵夫人と長女を伴って旅したイタリアがテーマとなっている。全7曲からなり、本日は後半の4曲が演奏される。

第4曲：ペトラルカのソネット第47番は、イタリアを代表する詩人F. ペトラルカ（1304-1374）による抒情詩集『カンツォニエーレ』第47番の詩に基づく。詩の概要は、愛する彼女の名を呼ぶ私の声、彼女を讃える私の詩、彼女が支配する私の思いに祝福あれといったもの。11小節の前奏の後、憧れに満ちた歌が続く。

フランチェスコ・ペトラルカ（1304-1374）

第5曲：同　第104番の詩は平穏さも闘志もなく、恋人への思いを胸に抱きつつ痛みに慰められ生を軽蔑し泣いて死を嘲ると綴る。曲の冒頭は不安の広がりを描き出すが、ゆっくり叙情的な歌を歌い始める。効果的に用いられる増3和音は諦めと希望に揺れる葛藤を表すかのようである。

第6曲：同　第123番の詩は天使のような彼女を見ていくぶん心が安らぎ、天界が耳を傾ける旋律が甘いそよ風を送ると結ぶ。音楽では調性感の不安定な前奏に続き、変イ長調のカンタービレなメロディーが奏される。ハ長調で始まる中間部の澄んだ旋律はまさに天上の境地を感じさせ、一瞬の緊迫を見せたあと変イ長調のメロディーと前奏を回帰させつつ静かに終わる。なおリストは先に歌曲《ペトラルカの3つのソネット》を完成させており、これをピアノ用にアレンジしたものが以上の3曲となる。

第7曲「ダンテを読んで」は文字通りダンテ（1265-1321）の『神曲』より「地獄篇」から着想を得たもの。「ソナタ風幻想曲」という副題が示すように、型にはまらぬ形式ながらソナタに匹敵する長大さと密度を備え、めくるめく異界の情景を高度な演奏技巧を駆使して描き出していく。

「軽井沢大賀ホールCLASSICS 2023」2日目は、6名の若手実力派チェリストたちによる豪華競演である。チェロという楽器の表現力を最大限に駆使することで古今の名曲がいかに新たな輝きをみせるか。奏者たちの熱演に期待が高まる。

クレンゲル／讃歌　編曲：小林幸太郎

ユリウス・クレンゲル（1859-1933）はドイツのチェロ奏者兼作曲家であり、15歳からゲヴァントハウス管弦楽団に所属する名手だった。後年はライプツィヒ音楽院教授として多くの生徒を育成し、作曲家としては4曲のチェロ協奏曲のほか、本日演奏される《**讃歌**》（1920年作）が比較的知られる。クレンゲルの原曲は12台のチェロ用で、4台のチェロをひとまとまりとした3群の協奏として扱っており、バロック時代のコンチェルト・グロッソの発想に近い。約80小節の小品ながら、積み上げられていく和音、祈るような美しい旋律等、聴きどころは多い。

ポッパー／ハンガリー狂詩曲　編曲：小林幸太郎

プラハ生まれの**ダーヴィト・ポッパー**（1843-1913）もチェリスト・作曲家・教育者として幅広く活躍した。1868年にはウィーン宮廷歌劇場の首席チェロ奏者に就任し、1896年からはブダペスト王立音楽院教授を務めた。《**ハンガリー狂詩曲**》（1894年作）はチェロとピアノのために書かれ、リストも自作のピアノ曲で引用した有名なハンガリー民謡がいくつも散りばめられているのが特色である。最初に12小節の民謡旋律が堂々と呈示されると、ソロのカデンツァが2つこれに続く。2つ目の民謡はニ短調で、ゆったりと物悲しいアンダンテ。3つ目は再度ニ長調に転じて軽やかに弾み、切れ目なく4つ目の急速なパッセージに移行する。その後、5つ目の旋律がニ短調で情感豊かに歌い上げられてから、ニ長調の6, 7番目の民謡で急速に高揚感を盛り上げてクライマックスを迎える。

グリーグ／組曲『ホルベアの時代から』　編曲：ヴェルナー・トーマス＝ミフネ

ノルウェーのベルゲン生まれの作家、ルズヴィ・ホルベア（1684-1754）の生誕200年祭にあたり、同郷の**エドヴァルド・グリーグ**（1843-1907）はピアノ独奏曲として**組曲『ホルベアの時代から』**を作曲し、翌年には弦楽合奏用に編曲した。題名の通り、ホルベアの時代、すなわちバロック期フランスの組曲スタイルを模して書かれている。**第1曲：前奏曲**。軽快な和音が開始を告げ、伸びやかな主題が続く。**第2曲：サラバンド**。3/4拍子で、サラバンドの特徴としてアクセントは2拍目に置かれる。優雅な中にもときに感情のほとばしりを聴かせる。**第3曲：ガヴォットとミュゼット**。足並みを揃えて上昇する音型を特徴とする主題が心地よいリズムで奏でられる。中間部のミュゼットでハ長調に落ち着いてから再びガヴォットに戻る。**第4曲：アリア**。唯一の短調であり、「religioso宗教的に」と指示されている。切々と思いを吐露するかのような楽曲。**第5曲：リゴードン**。最後に置かれているのは明るい舞曲だがソロは非常に技巧的で、聴き手を引き込む鮮やかな終曲である。

サン＝サーンス／序奏とロンド・カプリチオーソ　編曲：小林幸太郎

様々なジャンルの作品を残した**カミーユ・サン＝サーンス**（1835-1921）は、ヴァイオリン奏法にも通じていた。このことは彼の3曲の協奏曲、2曲のソナタ、そしてソロ・ヴァイオリンとオーケストラのために書かれた《**序奏とロンド・カプリチオーソ**》（1863年作）が証明している。これにはスペイン出身の名ヴァイオリニスト、パブロ・デ・サラサーテ（1844-1908）との交友も影響したと考えられ、本作は彼に献呈された。「Andante malinconico歩く速さで 憂鬱に」と記された36小節の序奏に続き、決然としたロンド主題が奏でられる（capricciosoは「気ままに」の意）。この主題と、アクロバティックなまでにソロが技巧を凝らす部分が交替して進み、最後はイ長調に転じてさらに速度を増して駆け抜ける。

ピアソラ／ブエノスアイレスの四季　編曲：小林幸太郎

南米アルゼンチン出身のバンドネオン奏者として活躍した後にパリに留学して作曲を学び、独自の音楽世界を開拓した**アストル・ピアソラ**（1921-1992）は異色の音楽家として知られる。タンゴに代表される民俗色の濃い彼の作品群はクラシック音楽家の心をもとらえ、様々なアレンジによりコンサートで盛んに取り上げていることは周知の通りである。《**ブエノスアイレスの四季**》はパリから帰国した彼が自身の五重奏団のために作曲した。最初に完成したのは〈ブエノスアイレスの夏〉で、しばらく後に〈秋〉〈冬〉〈春〉が書かれ（つまり本日の演奏順）、完成した四部作は1969年ブエノスアイレスのレジーナ劇場で初演された。

弓の打音を効果音的に用いた怪しいイントロに始まりリズミカルかつ哀愁漂う旋律を聴かせる〈夏〉、弓の摩擦音を生かした冒頭にロマンティックなソロが続く〈秋〉、哀しい旋律とテンポ・アップした躍動感溢れる部分の交替が聴く者の心を揺さぶる〈冬〉、前半の気だるい雰囲気と後半の踊り狂うさまとの対比が鮮烈な〈春〉。原曲の熱情（パッション）を失うことなく洗練された楽曲へと仕上げた小林の見事なアレンジとともにお楽しみいただきたい。

アストル・ピアソラ五重奏団（国内盤LP『ブエノスアイレスの四季／アストル・ピアソラ・オン・ステージ』ジャケットより）

※写真の選定と掲載にはピアソラ研究の第一人者である斎藤充正様にご協力いただきました。ここに記して御礼申し上げます。

近松博郎（ちかまつ・ひろお）／東京藝術大学音楽学部楽理科を経て、同大学院修士課程および博士課程修了。博士（音楽学）。2014年～2015年にかけてドイツのハレ大学に留学し、バロック音楽を中心とした研究を行なう。東京藝術大学古楽科非常勤講師、昭和音楽大学非常勤講師（鍵盤音楽史／音楽史）、明治学院大学キリスト教研究所協力研究員を務める。

東京フィルハーモニー交響楽団　今後の定期演奏会

10月の定期演奏会

第157回東京オペラシティ定期シリーズ
10月18日（水）19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第990回サントリー定期シリーズ
10月19日（木）19:00
サントリーホール

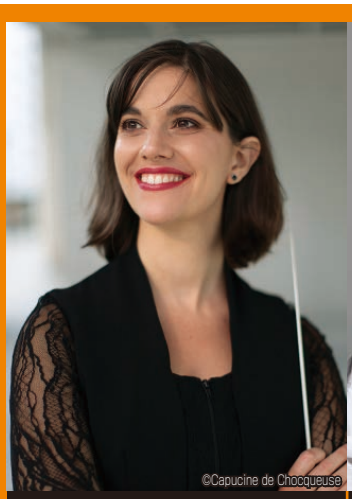
第991回オーチャード定期演奏会
10月22日（日）15:00
Bunkamura オーチャードホール

リリ・ブーランジェ
春の朝に
（リリ・ブーランジェ生誕130年）

サン＝サーンス
ヴァイオリン協奏曲第3番*

ベルリオーズ
幻想交響曲

聴きどころは▶


©Capucine de Chocqueuse

指揮
クロエ・デュフレーヌ
2021年ブザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞

©kisekimichiko

ヴァイオリン
中野りな*
2022年仙台国際音楽コンクール優勝

11月の定期演奏会

第992回サントリー定期シリーズ
11月10日（金）19:00
サントリーホール

第993回オーチャード定期演奏会
11月12日（日）15:00
Bunkamura オーチャードホール

第158回東京オペラシティ定期シリーズ
11月16日（木）19:00
東京オペラシティ コンサートホール

チャイコフスキー
幻想曲『テンペスト』
ロココの主題による変奏曲*
幻想序曲『ハムレット』
幻想序曲『ロメオとジュリエット』
（チャイコフスキー没後130年）

聴きどころは▶

©上野隆文

指揮
アンドレア・バッティストーニ
首席指揮者

©Seiichi Saito

チェロ
佐藤晴真*
2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝

【料金】1回券　SS¥15,000　S¥10,000　A¥8,500　B¥7,000　C¥5,500
※東京フィルフレンズ（年会費無料・随時入会受付中）入会で、定価の10%割引で購入いただけます（SS席を除く）。

お申込み・お問合せは東京フィルチケットサービスまで

03-5353-9522　10時～18時 発売日を除く土日祝休　https://www.tpo.or.jp/　24時間受付 座席選択可

主　催

軽井沢大賀ホールCLASSICS実行委員会（実行委員長 大賀緑）

協　賛

東通産業株式会社

協　力

公益財団法人軽井沢大賀ホール

公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団

ハーベスト・コンサーツ

後　援

軽井沢町

軽井沢町教育委員会

FM軽井沢

〈発行日〉令和5年8月12日　〈発行人〉大賀 緑　〈デザイン〉米田デザイン事務所　〈印 刷〉欧文印刷株式会社
〈発行所〉軽井沢大賀ホールCLASSICS実行委員会

©軽井沢大賀ホールCLASSICS実行委員会　＊無断転載を禁ず（非売品）